

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	中国短期大学
設置者名	学校法人 中国学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
		全学共通科目	学科等共通科目	専門科目	合計		
総合生活学科	夜・通信	40		83	123	7	
保育学科	夜・通信	16		82	98	7	
情報ビジネス学科	夜・通信	15		46	61	7	
(備考)							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/campuslife/syllabus.html にて、実務経験の有無欄で確認する。</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	中国短期大学
設置者名	学校法人 中国学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html

大学要覧(大学事務局に配置)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元県副知事	R5.10.1 ~ R8.9.30	組織運営体制への チェック機能
非常勤	元公立高校校長	R5.4.28 ~ R8.4.27	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	中国短期大学
設置者名	学校法人 中国学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では全ての授業科目についてシラバスを作成し、学生への利便性を考慮し、シラバスのWeb化を実施している。</p> <p>シラバスの主な項目は、「授業概要」「到達目標」「授業計画」「評価の方法」「受講の心得」「授業外学修」「使用テキスト」「参考書」「実務経験の有無(経験年数含む)」「課題等に対するフィードバック方法」等から構成される。</p> <p>シラバス作成にあたっては、「シラバス作成マニュアル」は毎年内容を見直し、変更箇所についてもピックアップするとともに、記述例を表記している。記載内容や記載方法を詳細に示すことができおり、作成マニュアルは非常勤講師を含め全教員へ教務システム「UNIPA」を通じて送信している。令和7年度に向けたシラバス提出は、「UNIPA」の機能を活用し、教員は作成マニュアルに沿って原稿を提出している。原稿はシラバス整備のガイドラインに基づき、教科担当者と教務課において点検を行い、記載上の留意事項に照らして不備や欠陥が認められる場合は、修正を依頼している。学生に分かりやすいシラバスを作成するとともに、学生は「UNIPA」の時間割機能から容易に、当該科目のシラバスを閲覧できる。令和6年度からはシラバスとルーブリックが同じ画面上で閲覧できるように、教務システムを改善した。学生の履修登録に資する授業科目の情報を公表している。</p> <p>シラバスの作成・公表時期については、例年次の日程で実施している。</p> <p>1 シラバス入稿期間：前年12月初旬～翌2月末</p> <p>2 シラバス点検期間：3月初旬～3月中旬</p> <p>3 シラバス修正期間：3月中旬～3月下旬</p> <p>シラバス公開：4月1日</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学ホームページにおいて公表</p> <p>https://www.c.jc.ac.jp/campuslife/syllabus.html</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

中国短期大学アセスメント・ポリシーにおいて、授業科目レベルの評価はシラバスに記載してある評価方法で行い、授業担当教員が科目（教養、専門、資格関連）の特性と、授業形態（講義、演習、実験、実習、実技）に応じ、適切な評価方法（筆記試験、レポート、実技試験、小テスト、授業出席度等）を勘案し、総合的に判断している。この成績評価の方法・基準は、シラバスに具体的な割合をすべて「%」で明記し、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、単位認定または履修の認定を行っている。

また、各教員がそれぞれに実施している指導の評価等については、常に学部内の会議等で相互に意見交換をし、きめ細かく効果的な指導と適切な評価について検討することで、学修成果が達成可能、かつ一定期間内で獲得可能なものになっている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価は、A～D及びFの5段階とし、D以上を認定としている。成績と評価基準は下表のとおりである。また、教育の質を保証するために、GPA (Grade Point Average) 制度を導入している。この制度の導入で、学生は自分の成績を数値で客観的に把握し、次の学期の履修計画に役立てるなどの活用が可能である。

成績と評価基準

成 績	評 価
100－90 点	A
89－80 点	B
79－70 点	C
69－60 点	D
59－ 0 点	F (不合格)

K：欠席 N：受験資格なし

GPAの数値の算出方法については、下記の方法により算出しており、この算出方法は学生便覧に記載し学生に周知している。

<GPA算出方法>

$4.0 \times A$ 評価の単位数 + $3.0 \times B$ 評価の単位数 + $2.0 \times C$ 評価の単位数 + $1.0 \times D$ 評価の単位数

GPA = $\frac{\text{総履修登録単位数 (F 評価、K 評価、N 評価の単位数を含む)}}{\text{総履修登録単位数}}$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

本学ホームページにおいて公表
https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、各学科で点検し、変更する場合は教務委員会へ学部案を提出し審議、承認を経て、幹部会、教授会で審議・決定することとしている。

学内においては、入学式直後に各学科で実施する新入生オリエンテーションで、保護者同席のもとでディプロマポリシーを示して、その内容を説明している。

さらに、学生にはその後のオリエンテーション期間中に十分な説明を行っている。

卒業認定は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び修得単位数を踏まえて行っている。

各学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、下記のとおりである。

【総合生活学科】

現代を心豊かにたくましく生きる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に短期大学士（生活学）を授与します。学士力とは、「知識・理解」「思考・問題解決能力」「技能」「態度」からなります。

<知識・理解>

生活学を中心とした幅広い教養を有するとともに、衣食住、環境、情報に関する基本的知識を身につけている。また、衣生活、食生活、福祉・介護、医療事務のいずれかの分野または複数の分野における専門的な知識を修得している。

<思考・問題解決能力>

他者を思いやる心、他者に対する礼儀の精神を有するとともに、他者と協力し問題を解決しようと試みることができる。

<技能>

衣生活、食生活、福祉・介護、医療事務のいずれかの分野又は複数の分野における技能を身につけ、生活の中で活かすことができる。

<態度>

他者との関係が良好であるように努めるとともに、おもてなしの心を有する。また、継続的活動を通して目標を達成した経験を有し、変化し続ける現代社会に対応すべく生涯にわたって学習意欲を持ち続けることができる。

【保育学科】

保育者として必要な幅広い知識と技術を身につけ、豊かな人間性を備えた人材を養成します。所定の単位を修得した学生に短期大学士（保育学）を授与します。

<知識・理解>

保育者に求められる専門的な知識を有し、それらを向上心を持って保育実践に活かすことができる。

<思考・問題解決能力>

保育を取り巻く環境の変化やよりよい保育活動をしていくうえでの課題について、適切に思考・判断し主体的に解決できる。

<技能>

他者を理解し応答的対応をするなかで、専門的スキルを活用して保育ができる。

<態度>

信頼される保育者に必要な優しさや思いやりなど、豊かな人間性と仲間との協調や家庭・地域と連携する態度を身につけている。

【情報ビジネス学科】

職業人に必要とされる幅広く専門的な知識とスキルを身につけるとともに、知・情・意のバランスのとれた人格の形成を目指します。所定の単位を修得した学生に短期大学士（経営情報学）を授与します。

＜知識・理解＞

情報とビジネスの領域に関する専門的な知識を修得し、実践する力を有している。

＜思考・問題解決能力＞

自らのセンスや感性を大切にしながらも論理的で客観的な思考ができる。また、他者の立場に立って、他者を思いやる心を有している。

＜技能＞

パソコンの利用技術、ビジネス実務のスキルを有して、得たスキルを実践する能力を有している。

＜態度＞

職業人としての常識・マナー・倫理観を身につけている。また、向上心を持ち、高い目標に向かって、自主的に学ぶことができる。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

本学ホームページにおいて公表

<https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	中国短期大学
設置者名	学校法人 中国学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html * 「財務の状況」に掲載
収支計算書又は損益計算書	https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html * 「財務の状況」に掲載
財産目録	https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html * 「財務の状況」に掲載
事業報告書	https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html * 「財務の状況」に掲載
監事による監査報告(書)	https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html * 「財務の状況」に掲載

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 公表方法: 本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 公表方法: 本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学科等名 総合生活学科
教育研究上の目的 (公表方法: 本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about.html#regulation)
(概要) 現代生活に関わる分野の専門的・実践的な教育研究を通じ、各人の志向する職業または実際生活に必要とする能力の習得を図り、社会に寄与できる人材の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: 本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3)
(概要) 現代を心豊かにたくましく生きる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に短期大学士(生活学)を授与します。学士力とは、「知識・理解」「思考・問題解決能力」「技能」「態度」から成ります。 <知識・理解> 生活学を中心とした幅広い教養を有するとともに、衣食住、環境、情報に関する基本的知識を身につけている。また、衣生活、食生活、福祉・介護、医療事務のいずれかの分野または複数の分野における専門的な知識を修得している。 <思考・問題解決能力> 他者を思いやる心、他者に対する礼儀の精神を有するとともに、他者と協力し問題を解決しようと試みることができる。 <技能> 衣生活、食生活、福祉・介護、医療事務のいずれかの分野又は複数の分野における技能を身につけ、生活の中で活かすことができる。 <態度> 他者との関係が良好であるように努めるとともに、おもてなしの心を有する。また、継続的活動を通して目標を達成した経験を有し、変化し続ける現代社会に対応すべく生涯にわたって学習意欲を持ち続けることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab2)
(概要) ○変化の激しい現代生活に対応できる知識を修得するために、幅広い教養科目を設置しています。 ○衣食住をはじめ健康、福祉、環境、デザイン、情報、コミュニケーションなどの現代生活に重要な分野について、基本的な知識や技術を幅広く修得するための専門科目を設置しています。 ○衣生活、食生活、福祉・介護、医療事務の各分野については、専門性を深めるための専門科目を設置しています。 ○上記分野における資格等の取得に関係する科目を設置しています。 ○他者及び自身の心を考える科目を設置しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表
<https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab1>）

（概要）

- 「生活」に興味や好奇心を持つ人
- 他者と協力し、目標を達成しようとする心を持つ人
- 継続的に努力すれば、多くの知識・技術が身につくとの信念を持つ人

学科等名 保育学科

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページにおいて公表
<https://www.cjc.ac.jp/about.html#regulation>）

（概要）

乳幼児の保育・教育の教育研究を通じ、専門知識ならびに技能の習得を図り、保育・教育現場において、一人ひとりの乳幼児にあわせた指導のできる保育者として寄与できる人材の育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表
<https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3>）

（概要）

保育者として必要な幅広い知識と技術を身につけ、豊かな人間性を備えた人材を養成します。所定の単位を修得した学生に短期大学士（保育学）を授与します。

<知識・理解>

保育者に求められる専門的な知識を有し、それらを向上心を持って保育実践に活かすことができる。

<思考・問題解決能力>

保育を取り巻く環境の変化やよりよい保育活動をしていくうえでの課題について、適切に思考・判断し主体的に解決できる。

<技能>

他者を理解し応答的対応をするなか、専門的スキルを活用して保育ができる。

<態度>

信頼される保育者に必要な優しさや思いやりなど、豊かな人間性と、仲間との協調や家庭・地域と連携する態度を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表
<https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab2>）

（概要）

子どもの人権に配慮しつつ乳幼児一人ひとりの発達に即した保育ができる実践力を有し、保護者に対する支援ができる保育者、自らも保育者にふさわしい心豊かな人間性を育もうと成長し続ける保育者の養成に努め、保育士資格、幼稚園教諭二種免許状等を2年間で取得することができる教育課程を編成しています。

○保育者としての実践力をつけるための基礎技能に関する科目を設置しています。

○保育者としての専門性を高めるための保育に関する専門的知識・技術に関する科目を設置しています。

○子どもの世界や保護者の気持ちに深くアプローチすることができる演習科目を設置しています。

○少人数で行われる保育者基礎演習や、地域の家族と触れ合える親子ふれあい演習など特色ある科目を設置しています。

○施設、保育所、幼稚園を順番に経験する、積み上げ式実習による保育体験ができる科目を設置しています。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab1）</p>
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保育者を目指す意志がある人 ○目的達成のために他者と協力して取り組むことができる人 ○子どもが好きで、人とかかわることができる人
<p>学科等名 情報ビジネス学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about.html#regulation）</p>
<p>（概要）</p> <p>情報処理やビジネスに関する専門的・実践的な教育研究を通じ、職業人としての能力の習得を図るとともに体験学習などを通して総合的な人間力を養い、地域および広く社会の発展に寄与する人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3）</p>
<p>（概要）</p> <p>職業人に必要とされる幅広く専門的な知識とスキルを身につけるとともに、知・情・意のバランスのとれた人格の形成を目指します。所定の単位を修得した学生に短期大学士（経営情報学）を授与します。</p> <p><知識・理解></p> <p>情報とビジネスの領域に関する専門的な知識を修得し、実践する力を有している。</p> <p><思考・問題解決能力></p> <p>自らのセンスや感性を大切にしながらも論理的で客観的な思考ができる。また、他者の立場に立って、他者を思いやる心を有している。</p> <p><技能></p> <p>パソコンの利用技術、ビジネス実務のスキルを有して、得たスキルを実践する能力を有している。</p> <p><態度></p> <p>職業人としての常識・マナー・倫理観を身につけている。また、向上心を持ち、高い目標に向かって、自主的に学ぶことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab2）</p>
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幅広い知識と教養を養うための教養科目を設置しています。 ○専門科目では、情報とビジネスに関する幅広い分野をフィールドに分類し、2年間の教育を通して効率的に専門的かつ幅広い学修を行います。 ○2年間の専門的学修の総まとめとして、ゼミナールを設置しています。
<p>入学者の受入れに関する方針（本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab1）</p>
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報とビジネスに関する専門的かつ実践的な知識や技能を身につけたい人 ○コミュニケーション能力やビジネスマナーを備えた職業人になりたい人 ○社会に貢献したいという意欲を持っている人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学科等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—							人
総合生活学科	—	3人	3人	2人	0人	0人	8人
保育学科	—	3人	3人	4人	0人	0人	10人
情報ビジネス学科	—	4人	2人	0人	1人	0人	7人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
2人		31人					33人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>「中国短期大学ファカルティ・ディベロップメント委員会」を中心として、ファカルティ・ディベロップメント（FD）を組織的に推進する体制を整えてある。</p> <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業参観：年に2回（前・後期各1回）、それぞれ2週間の授業公開期間を設けている。この期間、原則として本学全教員の授業が公開される。教員は空いている時間に自由に他の教員の授業を見学できる。互いに授業を参観し、授業の導入・展開・まとめといった流れに加えて、資料等の使い方等のよい点や改善点を指定用紙に記入し、提出してもらっている。その結果を授業担当者にフィードバックを行うことで授業改善及び指導力向上に繋げたい。 ・FD研修会：本学における直近の課題や、教育の日常的な取り組みの中から取り上げるべきトピックを選び、共通のテーマで全学部教員、事務職員が出席し、全学的な教育改善等について共有する。同じテーマで学部に分かれ意見を出し合い、後に発表するワークショップ形式を取り入れる回もある。令和6年度はFD研修会を3回実施した。 ・教育活動表彰：教育理念の実現に向けて顕著な教育活動の成果を上げたと認められる教職員を表彰することにより、意欲向上並びに教育方法及び教育技術の向上を図り、より優れた教育活動の推進に資することを目的に行う。 ・授業評価アンケート：授業に対する意見を学生から受け取ることで、授業改善の手がかりを見出し、授業改善につなげることで教育の質の向上を目指す。自由記述欄も設け、学生の意見を聴取する。集計結果を受けて、教員は科目ごとにコメントを返している。 ・卒業生アンケート：卒業年次生に対し、教務システムを利用した回答方式で授業、資格等についてのアンケートを実施している。 							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学科等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
総合生活学科	85人	50人	60%	170人	109人	60%	人	人
保育学科	80人	53人	70%	200人	117人	60%	人	人
情報ビジネス 学科	80人	55人	70%	160人	90人	60%	人	人
合計	245人	158人	60%	530人	316人	60%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学科等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)		その他
			就職者数	その他	
総合生活学科	48人 (100%)	2人 (4.2%)	45人 (93.8%)	1人 (2.1%)	
保育学科	80人 (100%)	人 (%)	74人 (92.5%)	6人 (7.5%)	
情報ビジネス 学科	48人 (100%)	3人 (6.3%)	43人 (89.6%)	2人 (4.2%)	
合計	176人 (100%)	5人 (2.8%)	162人 (92%)	9人 (5.1%)	
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)					
進学先：本学大学部3年次編入、私立大学					
就職先：公私立保育所・こども園、私立幼稚園、社会福祉法人、製造、運輸、卸売、小売、金融、宿泊・飲料サービス、生活関連サービス、情報通信等					
(備考)					

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学科等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数			
		卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
総合生活学科	50人 (100%)	46人 (92%)	人 (%)	4人 (8%)	人 (%)
保育学科	84人 (100%)	79人 (94%)	2人 (2.4%)	3人 (3.6%)	人 (%)
情報ビジネス 学科	53人 (100%)	48人 (90.6%)	人 (%)	5人 (9.4%)	人 (%)
合計	187人 (100%)	173人 (92.5%)	2人 (1.1%)	12人 (6.4%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学では全ての授業科目についてシラバスを作成し、学生への利便性を考慮し、シラバスのWeb化を実施している。</p> <p>シラバスの主な項目は、「授業概要」「到達目標」「授業計画」「評価の方法」「受講の心得」「授業外学修」「使用テキスト」「参考書」から構成される。</p> <p>シラバス作成にあたっては、「シラバス作成マニュアル」は毎年内容を見直し、変更箇所についてもピックアップするとともに、記述例を表記している。記載内容や記載方法を詳細に示すことができ、作成マニュアルは非常勤講師を含め全教員へ教務システム「UNIPA」を通じて送信している。令和7年度に向けたシラバス提出は、「UNIPA」の機能を活用し、教員は作成マニュアルに沿って原稿を提出している。原稿はシラバス整備のガイドラインに基づき、教科担当者と教務課において点検を行い、記載上の留意事項に照らして不備や欠陥が認められる場合は、修正を依頼している。学生に分かりやすいシラバスを作成し、学生の履修登録に資する授業科目の情報を公表している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業科目の学修成果の評価方法については、授業担当教員が科目（教養、専門、資格関連）の特性と、授業形態（講義、演習、実験、実習、実技）に応じ、適切な評価方法（筆記試験、レポート、実技試験、小テスト、授業参加度等）を組み合わせ、総合的に判断している。この成績評価の方法・基準は、シラバスに具体的に明記し、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、単位認定又は履修の認定を行っている。</p> <p>卒業認定は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び修得単位数を踏まえて行っている。</p>																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科名</th> <th>卒業又は修了に必要な単位数</th> <th>GPA制度の採用 (任意記載事項)</th> <th>履修単位の登録上限 (任意記載事項)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合生活学科</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>50 単位</td> </tr> <tr> <td>保育学科</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>50 単位</td> </tr> <tr> <td>情報ビジネス学科</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>50 単位</td> </tr> </tbody> </table>	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)	総合生活学科	62 単位	有・無	50 単位	保育学科	62 単位	有・無	50 単位	情報ビジネス学科	62 単位	有・無	50 単位
学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)													
総合生活学科	62 単位	有・無	50 単位													
保育学科	62 単位	有・無	50 単位													
情報ビジネス学科	62 単位	有・無	50 単位													
GPAの活用状況 (任意記載事項)	公表方法：本学ホームページ並びに「令和7年度学生便覧」において公表 280fd39c20ca08ff8eb02f314d3b60be.pdf (中国短期大学学則第15条)															
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：「令和7年度学生便覧」において公表															

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：本学ホームページにおいて公表</p> <p>https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
総合生活学科	410,000 円	250,000 円	380,000 円	教育充実費(220,000 円) 施設設備費(160,000 円)
保育学科	410,000 円	250,000 円	380,000 円	教育充実費(220,000 円) 施設設備費(160,000 円)
情報ビジネス学科	410,000 円	250,000 円	380,000 円	教育充実費(220,000 円) 施設設備費(160,000 円)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、従前から、経済的に困窮している学生を含め、学業成績が優秀な学生に対して授業料相当額又は、授業料相当額の半額を支給する奨学金制度を実施している。 入学生では、成績優秀者に加え、地方からの進学(沖縄県等の遠隔地)、卒業生の子、兄弟姉妹が本学に在籍している学生を対象としたもの、高等学校においてスポーツで優秀な成績を収めた学生を対象としたもの等、奨学制度を導入して手厚い支援を実施している。 障がいのある学生への支援については、学生本人の意志決定を重視し、障がい学生修学支援委員会で支援内容を決定して実施している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、一人ひとりの学生と向き合い、それぞれの学生が希望する進路につけるよう、各学科及び就職支援センターが連携して、きめ細かいバックアップ体制で支援を行っている。 就職支援センターでは、進路選択に関する面談、求人情報の提供、インターンシップ参加への助言や就職ガイダンス、学内相談会の開催などを実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健室では、学生が心身ともに健康な学生生活を送れるように健康診断の実施及び事後措置、健康相談と応急処置、感染症の予防等を実施している。 学生相談室では、専門カウンセラーが学生生活の中で起こる問題について面談に応じている。また、学生が健康的で豊かな学生生活を送れるように、健康に関する内容等の講演会を学生支援セミナーとして実施している。
(概要)

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F233310109731
学校名 (〇〇大学 等)	中国短期大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 中国学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		52人（ - ）人	49人（ - ）人	53人（ - ）人
内 訳	第Ⅰ区分	20人	18人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	26人	21人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	-	-	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	-	-	
区分外（多子世帯）	人	人		
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ ）人
合計（年間）				53人（ - ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当)	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）	
年間	人
前半期	0人
後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	—
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。